

令和5年度 第1回 吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時:令和5年(2023年)7月6日(木)午後2時~3時40分

開催場所:吹田市立中央図書館4階集会室

出席委員:瀬戸口会長、日置副会長、曲村委員、久保委員、飯田委員、山口委員、岩本委員、
木田委員、山本委員

欠席委員:川中委員

事務局: 林野中央図書館長、大平参事、添田主幹、牧瀬千里図書館長、林江坂図書館長、
梶原さんくす図書館長、佐野千里山・佐井寺図書館長、伊藤千里丘図書館長、
長尾健都ライブラリー館長、迫田山田駅前図書館長、栗田北千里図書館長

事務局欠席:桑名参事

傍聴者: 1名

令和5年度 第1回図書館協議会次第

- 1 新任委員紹介及び役員選出
- 2 「令和4年度(2022年度)吹田市立図書館点検・評価報告書(案)」について
- 3 報告事項
 - (1) 「令和5年度(2023年度)吹田市立図書館の目標」について
 - (2) 令和5年度の取組について
 - (3) 江坂図書館再開館後の状況について
 - (4) 北千里図書館(まちなかりビング北千里)の報告事項について
- 4 その他
 - (1) 次回協議会の日程について
 - (2) その他

事務局:傍聴者の確認

出席状況の確認

開会の挨拶(林野中央図書館長)

資料確認

- 1 新任委員紹介及び役員選出

- 2 「令和4年度(2022年度)吹田市立図書館点検・評価報告書(案)」について

瀬戸口会長:次第2、「令和4年度(2022年度)吹田市立図書館点検・評価報告書(案)」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

瀬戸口会長：指標が「経年比増」というのは妥当なのでしょうか。例えばサービス方針1の指標として、「レファレンス受付件数」が設定されていますが、情報化が進み、レファレンスの件数自体は減っていくのが必然かと思います。PR を含めての「経年比増」というのであれば妥当なのかもしれませんが、件数だけではなく、レファレンスの質や中身でも評価すべきだと思います。

大平参事：経年比増ということにつきましては、1つ数字が下がればAがBになるのか、など前々から指摘いただいております。今年度の目標指標は、経年比増としている箇所について、具体の数字がたてられるものについてはたて具体的な評価ができるようにしております。

林野中央図書館長：誰が見てもわかりやすいよう数値による評価は残しますが、それを補足するという意味で、数値に表れない内容について、委員の皆様にご文章で評価していただけたらと思います。

日置副会長：4ページ(目標)成人サービスで、高齢者向け紙芝居リストの改訂が目標にあげられていますが、この結果についての言及がありません。

大平参事：改訂はできませんでした。できなかったことを追記します。

日置副会長：11ページ、サービス方針4の指標は貸出点数ですが、この貸出点数に電子図書は含まれますか。電子図書を導入されたとのことで、貸出点数に影響しているのかが知りたくてお聞きします。

林野中央図書館長：電子図書は令和3年7月に約1000点というスモールスタートで導入し、令和3年度末に約30000点のコンテンツを購入しました。本格的に利用が稼働したのは令和4年度からですので、令和3年度と4年度を比較するこの表には電子図書は含んでいません。電子図書の貸出点数について補記するか検討します。

岩本委員：13ページ(目標)ビジネス支援サービスについて、講座の開催と「ビジネス支援だより」の発行ができなかったと取組状況に書いてあるのに、サービス方針5の自己評価がAというのは違和感があります。

大平参事：指標の数値は達成できているので自己評価Aとしましたが、御指摘の項目については目標を達成できていません。

瀬戸口会長：委員の意見として受け止めてもらえばよいと思います。

3(1)「令和5年度(2023年度)吹田市立図書館の目標」について

瀬戸口会長:次第3、報告事項に移ります。報告事項(1) 令和5年度(2023年度)吹田市立図書館の目標について、事務局から説明をお願いします。

大平参事:今年度から新しく策定した『吹田市立図書館サービス基本計画』に基づいて事業を進めてまいります。今回から新しい書式となっておりますので、最初に、「各年度の目標」と「サービス基本計画」の関係性を、サービス方針1を元に御説明いたします。

『サービス基本計画』の33ページから34ページにかけて、「サービス方針1 資料と情報の提供」において取り組むべき施策を記載しております。今年度の目標は、この施策の中から、当年度に実施するものを記載します。『サービス基本計画』にある全ての施策を各年度で実施するのではなく、継続して実施する施策、重点的に実施する施策を各年度目標で定め、最終10年後に全ての施策を実施することを計画推進の形としています。

『令和5年度吹田市立図書館の目標』の2ページ、「サービス方針1 資料と情報の提供」の項目1、職員向けのレファレンス育成ツールについては、『サービス基本計画』34ページ「(6)レファレンス」の項目2に対応した施策です。サービス方針3とも関係しているのですが、図書館は継続性が必要な施設であるため、専門的知識と経験の蓄積を継続するために、若手職員の育成を行い、サービスレベルの向上を図るものです。

項目2については、『サービス基本計画』33ページ「(2) 資料と情報の提供」項目1に対応した施策です。年齢別リストは、現在 0・1 歳向け、2・3 歳向け、4・5 歳向け、小学 1・2 年向け、小学 3・4 年向け、小学 5・6 年向け、YA 向けの 7 種類用意していますが、今年度改訂を行うのは YA 向けのリストとなります。

項目3については、『サービス基本計画』34ページ「(5) 地域資料の収集・保存と活用」に対応した施策です。地域資料をネット上でも見られるようにデジタル化を進めると共に、活用いただけるよう SNS などを活用した情報発信に努めてまいります。

項目4については、『サービス基本計画』33ページ「(3) 資料と情報の保存」に対応した施策です。図書館全体として、書庫の収納能力に限界が来ていますので、資料の保存方針に則り除籍をすすめ蔵書の適正化を図ってまいります。

サービス方針1の評価指標としては、上記の施策を実施した結果、資料を求める利用者に応えられた実績としてレファレンス受付件数が増えることを指標としています。この指標については、指標の達成を直接目指すのではなく、サービス方針で示した施策を実施する結果として表れる代表的指標としてサービス方針ごとに1つ設定しています。『サービス基本計画』では経年比増としておりますが、単年度目標では達成可能な増加数値を設定しております。

それでは、サービス方針2からは、『令和5年度吹田市立図書館の目標』を元に御説明いたします。

サービス方針2につきましては、障がい者サービスの目標となります。主に継続して行っている内容となりますが、今年度は、項目5、多様な読書方法への興味や関心を抱ききっかけづくりとして体験型イベントの開催を予定しております。指標は、アクセシブルな書籍等の年間貸出点数で、経年比増を目標としております。

サービス方針3につきましては、人材育成と、業務の見直しを目標としています。業務の見直しと一体化した取組として、項目3、図書館電算システムの更新に向けた準備を進めます。指標についても、次期図書館電算システム構築案の作成としております。サービス方針3については、9つのサービス方針の中で唯一、数値目標ではなく行動目標を指標としております。

以上、サービス方針1からサービス方針3につきましては、「基本目標1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します」の取組となります。

次にサービス方針4からサービス方針7につきましては、「基本目標2 生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します」の取組となります。

サービス方針4につきましては、指標とする市民の利用登録率に繋がる取組として、図書館内外でのPRを目標としています。指標の登録率は10年後に35.5%になることを目指し、段階的に上げていくということで、今年度は27.1%を目標としております。

サービス方針5につきましては、特色あるサービスとして4つのサービスに分けて、それぞれの取組を記載しております。

(1)健康・医療情報サービスでは、年2回以上の講座の開催と、パスファインダーの新規作成を取組目標としております。

(2)多文化サービスは、主に日本語を母語としない方を対象としたサービスです。図書館見学会の実施を目標としています。

(3)ビジネス支援サービスでは、引き続き、ビジネス講座の開催とビジネス支援だよりの発行を取組目標としております。項目3については、ビジネス支援サービスを実施している大阪府立中之島図書館との連携・協力の促進も取組の1つに考えております。

(4)就労・就業支援サービスでは、電子図書も含め引き続き資料の充実を図るとともに、類縁機関と連携・協力を図ってまいります。

サービス方針6につきましては、施設や地域との連携として、近隣大学や、幼稚園や保育所、児童会館・児童センター、博物館などとの連携・協力を引続きの取組としています。指標は講師派遣回数としています。この回数には、出前講座の講師派遣と、子ども読書活動支援センターの講師派遣を含めての数値となります。こちらの指標ですが、令和3年度は実績が20%だったのですが、令和4年度は目標回数の年10回に達し、実績は100%となっています。目標の設定が低すぎたのかもしれませんが、今年度の目標も100%としています。経年の実績を見て、5年目の中間見直しの際に、必要があれば見直します。

サービス方針7につきましては、市民との協働としまして、ボランティア団体の活動の支援、個人ボランティア・図書館フレンズの登録人数の維持、地域との協働企画の取組などを記載しています。サービス方針6が団体との協働であるのに対し、サービス方針7は個人との協働という位置付けとしております。指標につきましては、『サービス基本計画』では経年比増としておりますが、単年度目標ではボランティア養成講座の定員分の増加分としています。

サービス方針8からサービス方針9につきましては、「基本目標3子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します」の取組となります。

サービス方針8につきましては、児童サービスの取組としまして、ブックスタートの絵本配布率の向上、講座の開催、定例行事、季節ごとの行事の開催などを引続きの取組としております。読

書離れが言われるYA世代への利用促進の取組としましては、最後の項目にありますとおり、電子図書をPRしたり、YA世代自身が参加する取組を継続して行ってまいります。指標につきましては、児童サービスで実施した行事への参加者数とし、経年比増を目標としています。なおこの数字は、人口の増減にも対応できるよう、対象人口に対する参加者数の割合としています。

サービス方針9につきましては、子ども読書活動支援センター機能の取組となります。子ども読書活動支援センターについては、12ページに語句解説を載せています。学校、幼稚園、保育所などとの連携については、図書館の児童サービスとして行っていたところですが、物理的なセンターについては、令和3年度に中央図書館に担当を設置し立ち上げました。

子供たちへの読書推進の取組として、サービス方針8では子供個人に対して、サービス方針9では、関係機関との連携・協力の取組との位置付けとしております。サービス方針9に記載している取組の大部分は継続した取組となりますが、項目3、訪問が困難な場合の動画の提供などの工夫や、項目5、「すいた電子図書館」の利用を増やすための取組などは新しい取組となります。

瀬戸口会長：『令和5年度吹田市立図書館の目標』について質問・意見を受け付けます。

山本委員：現在はネット環境が普及して、小さい子供でも簡単に情報にアクセスできます。図書館に来ないと得られない、図書館に来たくなるような図書館独自のサービスを具体的に示してほしいです。特色あるサービスについては、求められるサービスに着眼点を置いた方がいいと思います。

大平参事：図書館の生き残り戦略として考えなければと思っています。図書館は読書のためだけの施設ではなくていろんなことができる施設であるとPRして、結果的に図書館に来てもらえたら、本に出会ってもらえると考えています。

曲村委員：コロナ禍の影響もあり、在宅で資格をとる人が増えています。資格取得の本は高額で、用が済んだら不要になるものなので個人で買うのはむずかしい。そういう本のコーナーがあるとよいと思います。

大平参事：さんくす図書館に就労支援に関する資料を集めたコーナーを設置しており、通常の選書では購入しない書込み式の図書なども購入しています。また、電子図書でも資格取得の問題集などを購入しています。

木田委員：図書館は高齢者が豊かな時間を過ごせる場所であってほしい。文化的素養がないと文化的人生を楽しむことはできません。子供時代に文化的な環境になかった今の日本の高齢者にはその素養がない人が多いように思います。子供時代から文化的生活に親しむことはとても大切なことだと思います。

3(2) 令和5年度の取組について

瀬戸口会長: 次第3、報告事項(2) **令和5年度(2023年度)の取組**について、事務局の説明をお願いします。

添田主幹: すいた電子図書館 読み放題の導入について、御説明させていただきます。令和3年7月から開始しました電子図書につきましては、子供たちの読書の幅を広げる取組の1つとして、令和4年7月には、GIGA スクール構想により児童・生徒に貸与されている1人1台端末での利用を開始し、多くの利用をいただいています。しかしながら、読みたい本をなかなか見つけられない、見つかったも貸出されているなどのお声をいただき、この度、「読み放題」の電子図書を導入いたしました。「読み放題」は、通常の電子図書と異なり、複数人で同時に同じ電子図書を読むことができるもので、貸出冊数に関係なく、すぐに読みたいときに御利用いただけますので、例えば、友だちと一緒に同じ本を読むこともできます。6月1日からの導入に合わせて、市立小中学校にも案内いたしました。夏休みに向けて多くの子供たちが利用してくれることを期待しています。

続きまして、子供たちに向けて毎年夏休みに合わせて行っております取組について、御報告いたします。冊子「もうよんだかな?」「てくてく」ですが、こちらは、毎年、その前の年に出版された子供の 本の中から、夏休みにあわせて司書がおすすめする本を厳選し、内容紹介つきでパンフレットを作成しているものです。中学・高校生世代向けの「てくてく」の後半のページは、同世代から募集した編集委員の手によるものです。7月10日から8月31日の期間、各図書館で「夏休み文庫」として特設コーナーを設け、掲載図書の貸出を行っています。このほか、日ごろからレファレンスや読書相談は行っておりますが、夏休み期間には、「宿題タスケルンジャー」と題して、キャンペーンを行い、職員は、「宿題タスケルンジャー」の名札を付けてカウンター応対をする取組を今年度も7月10日から実施いたします。

長尾館長: 健都ライブラリーの健康医療情報講座について御報告いたします。健都ライブラリーでは、今までにも健康医療に関する講座を指定管理者と開催してきました。4 年目を迎えるにあたり、今年度、図書館と指定管理者(健都パークライフ創造パートナーズ)と各医療機関との共催というかたちで、「健都ライブラリー健康医療情報講座」を開催しております。図書館の役割分担としては、ブックリスト・特設コーナーの作成でしたが、それに加えて4月からは、おすすめの本の紹介、ミニミニブックトークなども行い、より多くの方に本を手にとっていただけるようにしています。令和5年度は29回程度開催予定です。普段はどちらかというと成人向けの講座が多くなっておりますが、夏休みに関しては、中高校生や小学生向けの講座を企画しております。

瀬戸口会長: 令和5年度の取組について、御質問などありましたらお受けします。

(質疑応答なし)

3(3) 江坂図書館再開館後の状況について

瀬戸口会長：次第3、報告事項(3) 江坂図書館の再開館後の状況について、事務局の報告をお願いします。

林 館 長：江坂図書館は、約半年の改修工事を経て、4月20日に再開館いたしました。まず、再開館前の4月8日、9日に開催しました内覧会について報告いたします。

4月8日は公園のリニューアルオープンイベントと同時開催でしたので大盛況でした。9日は内覧会のみで開催で、ゆったりと館内を見ていただくことができました。2日間で約2,000人お越しいただきました。

続きまして、再開館日の4月20日から6月19日までの2か月間の利用状況について報告いたします。

コロナ禍以前の令和元年度の同時期と比較しまして、来館者は約36,000人、登録者は約1,000人、貸出人数は約4,500人、貸出数は約18,500冊増えております。細かい数値の検証はまだできていませんが、来館者の増加に比べて貸出人数が増えていないのは、中2階の閲覧スペースを含め以前よりも増えた閲覧席でゆっくり読書を楽しまれている方が多くなっていることも要因の1つではないかと考えております。また、特に土日や祝日は絵本コーナーが賑わっており、公園側に新設した扉からの出入りが、メインの出入りに匹敵する日もあります。従来から大変利用の多い幼児向け絵本については、収容量の2倍程度の冊数を準備していましたが、すぐに書架がガラガラになるほど借りられている状況です。

最後に、先日吹田市動画配信チャンネルに江坂公園紹介動画が公開されましたので、御覧ください。

(江坂公園紹介動画上映)

瀬戸口会長：江坂図書館の報告について、質問などお受けします。

岩本委員：江坂図書館の指定管理者は図書館の経験値のない事業者ですが、気持ちよく利用してもらえるサービスができているのかどうか、状況を教えてください。

林 館 長：現行の業者は令和4年7月から指定管理が始まりましたが、リニューアルオープンするまでは臨時窓口での業務でした。リニューアルオープンしてから2か月ほど経ちますが、利用が非常に増えているため、経験者の配置を増やすなどの対応をしながら、現在少しずつスタッフの経験を重ねているところです。

3(4)北千里図書館(まちなかりビング北千里)の報告事項について

瀬戸口会長:次第3、報告事項(4)北千里図書館(まちなかりビング北千里)の報告事項について、事務局の説明をお願いします。

栗田館長:令和4年度の活動報告をさせていただきます。令和4年11月22日の開館から3月末までの短い期間でしたが、地元の大学・吹田の企業との多くの連携事業を実施することができました。図書館・公民館・児童センターがいっしょになった施設の特性を活かし事業を行っております。

特に、2月12日に開催した「第1回まちきたクロストーク」について報告いたします。地元出身の文筆家塩谷舞さんとクレヨンハウス大阪店店長をゲストに迎え、児童書をテーマに子供の読書、自身の生き方、仕事について参加者を交えたトークイベントを開催しました。塩谷さんは青山台文庫で育ちになったそうで、子供時代に身近に本がある環境がいかに恵まれていたか、とお話しされていました。クレヨンハウスの店長さんは、販売の現場から今の子育て世代に対する読書環境のあり方、そして以前に比べ父親の参加が非常に多くなっていることなどをお話しいただきました。参加者は特に30代から40代の子育て世代の方が多く、会場の一角に保育スペースを設け大変好評でした。

令和5年度については、吹田市が進める地域との連携、大学・学校・保育所との連携を進めてまいります。特に地元の北千里の商店会と情報交換しながら協働していきます。アートイベントなどで子供たちの体験の機会を増やし、地域交流を深めます。地域の未来を担う人材の育成として、子供たちには学校と異なる交流の場所を提供します。閉館後の児童センターを利用したまちきた学習室、大学との協働事業、中高生へのアンケートを行います。

世代交流については、児童センター・公民館の利用だけにとどまらず、図書館がある魅力を自然に感じていただけるような取組を行っていきます。

特に公民館は多くの地元の方々に利用されている施設として、今後も図書館も連携していきたいと考えています。

瀬戸口会長:北千里図書館の報告について、質問などお受けします。

飯田委員:世代間交流の場を設けてもらいたいです。たとえば YA 世代と高齢者との交流なら、青山台文庫も協力できます。地域との連携ということでぜひお考えください。

栗田館長:貴重な御意見をありがとうございます。

4その他

(1) 次回協議会の日程について

(次回協議会の日程について説明)

瀬戸口会長：本日予定しております案件は以上ですので、本日は、これで会議を終わらせていただきます。

長時間お疲れさまでした。